# 本部だより

●第 49 号

マーシャル方面遺族会
http://mibfa1926.com
携帯サイト
●発行日：令和６年２月１日　●発行人：髙林芳夫
●本部：181-0012　東京都三鷹市上連雀8-7-8
●電話 & FAX：0422-77-8557　●編集人：鈴木千春

ウオッゼ島、外海から押し寄せる敵艦に応戦した砲台

## ごあいさつ

髙林芳夫

新年あけましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます

昨年はおかげさまで60周年の記念すべき慰霊祭を挙行する事が出来ました。

今年も4月7日（日）に慰霊祭を開催致します。ご家族お揃いでお参り下さいますようお待ち申し上げております。

会の歴史を紐解きますと、設立からすでに60年の年月が過ぎました。当初の会員構成は、戦没者の親・妻世代でした。その後は兄弟姉妹世代、現在は子供世代が引き継いでおります。

私たち子供世代もすでに80歳を超え、年々自然減少が見られます。そろそろ次世代への交代を考えています。

交代がスムーズに出来ますように青年部を設立致しました。次世代を担う青年部に望む事は、会が歩んだ歴史を継承しつつ、現代の時代に合った会のあり方を模索し、魅力ある遺族会活動を進めてほしいと願っております。

今年も皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げます。

# 令和６年度　慰霊祭・総会・直会のご案内

慰霊祭・総会を開催します。
皆様お誘いのうえご参列下さい。

■日時
令和６年４月７日（日）

■受付
靖国神社参集殿前
９時30分より受付開始。10時15分までに受付をお済ませください。

■会場　参集殿二階「楠の間」

■総会　10時30分より
一　開会の辞
一　あいさつ
一　活動報告
一　会計報告
一　会計監査報告
一　今年度行事予定
一　その他
一　閉会の辞

■織田邦男様講話　11時より約20分間

■集合写真撮影　11時30分から（同会場）

■慰霊祭　昇殿参拝　12時より

■直会（懇親会）
アルカディア市ヶ谷２階　中国料理「翠」
靖国神社から徒歩で移動となります。
13時頃より開始
会費　お一人様　５０００円
終了時刻　15時30分頃
※参加人数によりお店が変更される場合があります。

## 事務局よりお願い

●出欠はがき
はがき（同封）に必要事項をご記入のうえ、**２月末日までに本部へ届くよう投函下さい。**
欠席の方も同様に投函下さい。

●会費
振込用紙（同封）にて**２月末日までにお振込みを**お願いします（振込手数料は各自負担でお願いします）

年会費　３０００円
慰霊祭参加者お一人につき（お子様も）
玉串料　５００円
直会参加者　５０００円

・寄付金　任意ですが、当会は皆様からの会費とご寄付で運営しております。何卒ご協力をお願いします。
・会費未納の方がいらっしゃいます。会則に従い、２年間お振込みのない方は会報発送を停止します。

## 青年部設置について　髙林芳夫

現在、会を運営している遺児の年齢は80歳を超えました。世代交代がスムーズにできるよう10月14日の役員会にて青年部を設置し、部長に古田誠一郎さん（46才）が就任されました。青年部の今後の活動に期待します。

## 青年部長ごあいさつ　古田誠一郎

この度、遺族会青年部長に就任いたしました古田でございます。青年部の活動として、まずは現在ご高齢の遺児の方々が中心

古田部長

となられている当会の運営を引継ぐ事から始めたく存じますが、今後は若手会員向けの勉強会など会員同士の交流の場を設ける事や、遺族会発足からの膨大な資料の整理等も考えております。

少人数でのスタートとなりましたので、お力添え頂ける方がおられましたら是非お声掛け下さい。また、これからの活動内容へのご意見等もお聞かせ頂けますと幸いです。

まだ会員歴が浅いため、皆様にご指導を賜りながらの活動となるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 役員紹介

（敬称略）

令和5年度の役員は次の通りです。

名誉会長　朝香誠彦
相談役　大給乗龍
会　長　高林芳夫
副会長　清水雅尚［総務］
副会長　山村一郎［渉外］
副会長　保延　務［会計］
幹　事　米林義昭［総務］
幹　事　鈴木千春［編集］
幹　事　佐藤　勉
幹　事　小室洋子
幹　事　石澤洋子
幹　事　佐藤知子
幹　事　白方勝彦［デジタル担当］
事務局　米林美智子［総務・渉外］
青年部長　古田誠一郎
青年部　保延　恒
青年部　黒澤みどり
監　事　吉田正明

## 永代神楽祭

高林芳夫

令和5年7月15日、靖國神社にて当会の永代神楽祭（命日祭）を斎行いたしました。

神官の祝詞に続き、巫女による「浦安の舞」が奉納され清々しい心が洗われるひと時でした。安細元大使以下14名が参列して御霊のご冥福をお祈り申し上げました。

当日は靖国神社のみたままつりの最中で境内には屋台が出て大変な賑わいでした。東京の夏の風物詩となっています。

**参加者**（敬称略・順不同）
黒澤みどり・平野裕美・平野　稜・保延　務・高林正子・小室洋子・石澤洋子・小松正則・米林美智子・米林義昭・冨岡滋子・小室貞男・安細和彦・髙林芳夫

## 全国戦没者追悼式

鈴木千春

8月15日政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館で行われました。

私は当日、朝9時に靖國神社に参拝したのち武道館に向かいました

が、政府要人が集まるだけに九段下駅から武道館周辺はものものしい警備体制でした。

会場では、台風７号の影響で10府県が欠席となり総参加者は１５７２名との発表でした。開催の判断など主催者側のご苦労は大変なものだったと想像します。無事に皆が一同に集まり、追悼式が行われることに感謝しました。

正午の時報に合わせ、全員で黙とうし、岸田総理大臣は、「積極的平和主義の旗の下、国際社会と手を携え、世界が直面する課題の解決に取り組む」と述べました。

天皇陛下のお言葉を記載します。

「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来78年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。これからも、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

## 令和５年度東京都戦没者追悼式

黒澤みどり

東京都戦没者追悼式が終戦記念日の８月15日、文京シビックホールにて挙行されました。国歌奏楽、小池都知事の式辞に続き、黙祷、天皇陛下のお言葉があり、東京都議会議長、東京都遺族連合会会長並びに同遺族代表の追悼の辞が捧げられました。

東京都遺族連合会遺族代表で豊島区戦没者遺族会会長の藤井政孝様は、ご自身の戦争体験を語られました。お寺のご住職であられたお父様が35歳で戦没されたこと、弟さんが親戚の養子となったこと、お母様が早朝から深夜まで仕事で留守をしていたため、一人過ごす夜が寂しくて枕を濡らしたこと、お母様が懸命に働いて藤井様を大学までお出しになったこと、お父様の遺品が何一つ戻らなかったことなどを、時折お声を震わせ、言葉に詰まりつつお話をされていたお姿が、胸に焼き付いております。戦争がなければ、お父様がご住職を務めるお寺でご家族揃っての幸せな暮らしが営まれた筈でした。藤井様の溢れんばかりの思いに、同じように父親を戦地で亡くした私の父の人生が重なり、痛切に胸に応えました。

祭壇を前に捧げられたどの方のお言葉にも、英霊の尊い犠牲の上に現在の日本の繁栄と平和が成り立っていることへの深い感謝と哀悼の思いが込められておりました。この平和と大切な日常を守るために、二度と戦争を起こしてはならないのだという強い思いを新たに胸に刻みつつ、マーシャル方面遺族会会長代理として、献花をさせていただきました。

## 令和５年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭

髙林芳夫

秋晴れの10月18日、秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下ご臨席のもと秋季慰霊祭が執り行われました。式次第は以下の通り。

一　開式の辞
二　国歌吹奏
三　献茶の義
四　式辞
五　昭和天皇御制奉踊
　　上皇殿下御制奉踊
六　童謡唱歌奉唱
七　追悼の辞
八　秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下ご拝礼・一同拝礼・黙祷
九　秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下ご退場
十　陸・海・空自衛隊部隊拝礼
十一　献花
十二　閉式の辞
十三　一般焼香

当会への招待は１名でしたので私が代表して参列してまいりました。終戦より今年で78年を迎えました。戦争で犠牲となられた全ての御霊にご冥福をお祈り申し上げ、感謝の誠を捧げてまいりました。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には37万４８５柱が納骨されております。

## 訃報

東京都　石谷孝子様
茨城県　北條　晃様
謹んでお悔やみを申し上げます。

## 新入会員（戦没地島名　戦没者との続柄）

米国　アルガード昌子様（クェゼリン　孫）
神奈川県　田邉順子様（クェゼリン　姪）
茨城県　北條勝成様（ルオット　弟）
※北條晃様の弟さんが継承されました。
●会友、入会者（髙林会長推薦）
新潟県　渡辺美枝子様
ご入会ありがとうございました。
※前号48号の新入会員で間違いがありました。
（誤）静岡県　冨岡滋子様
正しくは
（正）兵庫県　冨岡滋子様　です。
お詫びして訂正いたします。

## 寄付者　御芳名（敬称略）

茨城県　北條勝成様　一万円
ご寄付をありがとうございました。

## 令和５年度マーシャル諸島現地遺骨調査派遣

鈴木千春

７月４日から14日まで11日間ウオッゼ島の遺骨調査に行きました。派遣メンバーは、日本戦没者遺骨収集推進協会２名・日本遺族会・厚生労働省・ＪＹＭＡ日本青年遺骨収集団（鈴木）より各１名、４団体から合計５名でした。

２度目の調査とはいえ５年ぶりのため、派遣メンバーも現地大使館スタッフも、作業手順も、すべて変わり、戸惑うことも多々

ありました。

現地は特殊な土地制度、入域には地権者の許可が必須ですが、５年もブランクがあると地権者が数名亡くなっており、世代交代の土地もあったため、その都度許可をとりトラブルのないよう細心の注意を払いました。

調査・試掘にはＣＨＰＯ（文化歴史遺産保存局）局長が同行し、マーシャル人との通訳も兼任、島民との意思疎通で大変助かりました。

今回新たな遺骨も発見。嬉しかったのは５年前にワーカーで協力してくれた人が、我々の噂を聞き、現場に駆けつけ情報をくれたこと。島民の協力なくして任務達成はできないことを実感しました。

前回、時間切れで調査できなかった外海の砲台跡の一部（表紙写真）に行くことができましたが、将兵の埋葬場所はジャングル化しており、伐採して一人分の通り道を作るにもかなりの時間を要しました。

故・山村要さんの娘・稲子さんがエアマーシャルのCAだった。

80年もの時間を遡って遺骨を捜索することは容易ではありません。現在、我々の手元にある情報は、戦後、生存者が秘かに書き残した戦友の埋葬地をマッピングしたものであり、それは全戦没者のほんの一部です。二千七百名の眠る場所は、車から見た草原一帯かもしれない、いま通りすぎた砂浜かもしれない、そう思うと1分1秒が惜しく、私は常に地面に目を凝らしていました。今後は島民からの情報を積極的に収集しないといけません。

最終日、高校の敷地内で島民が発見し保管してくれていた日本兵の全身骨と対面できました。現地警察に預かってもらっています。ある手記で発見しましたが、ウオッゼ本島の北、エニブン島には陸軍兵約百名が埋葬されています（未調査）。一人でも多く発見し、日本にお連れしたいと心より願います。

※その後、10月24日から11月8日まで、遺骨収容派遣隊が21柱相当を収容しました。

# マーシャル・ミリ島 ― 父の戦没地 親子で慰霊訪問（7月29日～8月18日）

保延 務・恒

ミリ島へ「今しかない」と行ってきました。私の父（保延一雄）は昭和十八年八月、第四海軍の軍属として出征し、昭和二十年二月ミリ島にて戦死しました。父の死亡時、私は四歳。甲府で母と暮らしていましたが、その母も亡くなり孤児となりました。以来、母方・父方 両方の親戚で中学校までを育てていただき、東京・目黒 町工場の丁稚小僧を振り出しに今日、八十二歳まで生きてまいりました。

この間、幾たびも父の居ない悲哀を感じ「いつの日か父の島に行こう」と密かに思っていました。「父は何処でどのようにして亡くなったのか」ミリの二文字を心に生きていました。それが父の年齢の二倍を超えても果たせず、昨年夏「死ぬまでには…いや今しかない！」と決断しました。幸い息子も「一緒に行ってもいい」となり決行できました。そのほか遺族会はじめ沢山の方々のご協力をいただきました。中でも元マーシャル大使の安細和彦氏にご指導を仰ぎ現地の事情を教えていただき、「イネコ・ヤマムラ氏の紹介」など沢山のご援助をいただき、実現できたのでした。（イネコ・ヤマムラ氏は、当会と縁の深い日系人カナメ・ヤマムラ氏の娘さんです）ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

ミリ島では時間がゆっくりで不思議でした。

マジュロ空港でイネコ・ヤマムラさんと娘さん

ミリ島に到着

保延さんが生活した海岸

島は、道路以外は私有地、四人の酋長さんがおられ、幸いベン・チュータロウ氏の一族ニヨジ・ロメト氏のご協力で「最大の難問が」解決できました。ミリ島はミリ環礁の中心で、波の静かな内海（東側）に人が住み、外海（西側）側はジャングル「大砲やゼロ戦やトーチカ」など戦争当時の残骸がそのまま沢山残りその臨場感に圧倒されました。

この島に戦争当時、日本兵と軍属五千七百人がいました。昭和十九年二月六日クェゼリンが玉砕してから終戦の昭和二十年八月まで約一年半食料が途絶え 約三千百人が亡くなった（殆どは餓死）。現在のミリ島には約五十人が住んでいますが、ホテルや民宿も港やお店もない。電気ガス水道もない。しかし人々は全員親切でこの島では時間がゆっくりすすむような不思議を感じつつ念願の父と逢いました。

ゼロ戦

10月14日の役員会で、ミリ島慰霊の様子を保延さんに報告していただきました。

わが父はいずくに在りや訪ね来て
　その地に立ちて男泣きする

悠久の　ときが洗いしミリの砂
　その一粒は われの父なり

ゆったりと時のながるるミリの夜
　南十字星を父も見たはず

ジャングルに撃墜されしゼロ戦が
　七十八年いまも残れり

人類が本来持てる優しさを
　われ 忘れてた　ミリに教わる

永年の念願遂に果たしたり！
　わが人生の雲は晴れたり！

※ミリの写真を表４に掲載しています。

# 竹之下和雄様　特別インタビュー②

鈴木千春

**竹之下和雄様**
昭和16年生まれ　本籍・鹿児島
昭和37年　厚生省入省・援護局
平成12年　退官　退官後、公益財団法人中国残留孤児援護基金に65歳まで勤務、現在は一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会の専務理事

**〈前回の続き〉昭和48年、日本政府は南洋の島々に船での遺骨収容団を派遣。当会からは浮田信家氏が参加し、環礁20号（昭和49年）に記事が掲載されています。厚生省担当者として現地に行かれた竹之下和雄さんに当時のお話を伺いました。**

## ●派遣の概要は？

戦後、生存者が各島から復員したときに聞き取った情報に加え、事前に調べた遺骨情報をもとに計画されました。

10月11日～12月14日の65日間、東海大学丸Ⅱ世という実習船に乗り、島を巡りました。

出発・芝浦

## ●派遣メンバーの構成は？

日本遺族会、マーシャル遺族会、戦友会はミレ島第４施設部会、第66警備隊、南洋第４支隊、９５２海軍航空隊（各数名）、日本青年遺骨収集団の大学生（15名）、記録映画のカメラマンと私たち厚生省職員。男性ばかり35名でした。最年長が元海軍大佐の浮田さん（当時73歳）でした。さらに船を動かす船長以下、乗員と実習生の約50名です。

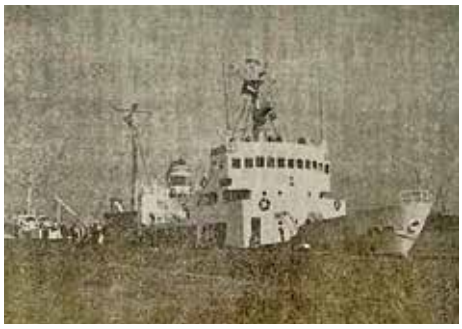
## ●船内の居住環境は？

３段ベッドで、大学生の部屋はハンモックと記憶しています。居住区は船底で、船室も通路も狭かった。団長やドクターは狭い個室でした。

## ●行きの船内は？

よく揺れる船でね、東京湾を出航してすぐ小さな台風に遭い、みんなゲーゲー始まりました。元駆逐艦乗りの団長もダウン。船酔いしない私とカメラマンの二人が、みんなのお世話係として忙しかったです。

最初の寄港地サイパンまで、船内で研修や交流等、結構忙しいのですが、戦友会の一人で困ったお爺さんがいました。免税で買ったお酒をずっと飲んでいて、船内をふらついているんです。それを見た船長が、「船も揺れているのに酒飲んでフラフラして、海に落ちたらどうするんだ！　危ないから見張っていろ！」と、団長は船酔いで



**東海大学丸Ⅱ世**
全長・51ｍ　幅・９ｍ
総トン数・702ｔ　速力・11.8ノット
船長・佐藤孫七氏

使えないから、私がかわりに怒られました。お爺さんは何度注意してもダメで、翌日も酔って徘徊していましたが、3日目にとうとう動かなくなった。船には医者がおらず、衛生士だけ（内地の医者に電話して指示を仰いで処置する係）です。医者と交信しながら「とにかく水を飲ませろ！」すると彼の足がむくんできました。

## ●最初からトラブル発生ですか？

サイパンについてすぐ医者に診せると「なぜこんな重症者を連れてきた！」と怒られた。彼はもともと深刻な内臓疾患があり、酒を禁止されていたこと隠して乗って来たのです。私たちは「日本に帰そう」と判断。しかし一人では帰れないので、現地エージェントに、彼が搭乗するまでのお世話を頼んで飛行機を手配。厚生省から家族に連絡し、羽田に迎えに来てもらった。結局その人は、何もしないまま帰国しました。

旅のはじまりはこのような予期せぬことが起こりました。「長旅なので医者を手配しないと」と、厚生省から役所間でお願いして、自衛隊の医官が後日、飛行機で来てくれて、マジュロで合流しました。以降は病人なく順調でした。このときの教訓で以後、遺骨収集には全員の診断書の提出を義務にし、現在に至っています。

## ●島での収容の様子は？

船は行く先々で補給と洋上慰霊をしながら島々に向かいました。各島で酋長、村長及び島の有力者に会見し、協力と情報提供を求めます。遺骨捜索は、派遣団を3班に分け、班単位で行動しました。一番若い日本青年遺骨収集団（大学生）は主力となって積極的に活動してくれました。

ある島でヤシの木の根に5～6柱が埋まっていました。頭蓋骨の中に根が深く入り、からまっていましたが丁重に収容しました。自然の力とはいえ人間を養分にして成長したヤシの木、現代人にはホラー映画のように感じるかもしれませんね。島はリーフのため穴を掘れず、野ざらしになっているのも多く、皆、戦友の骨を手に、それぞれ胸に思うことがあったと思います。

## ●地権者問題は？

現在は難しい地権者問題ですが、当時マーシャルは太平洋信託統治領として米国が統治しており（独立前なので）地権者問題は全くありませんでした。

また、私たちの行動予定は、事前にマジュロの行政官事務所の米国人に通達しており、彼から各島の酋長や村長に、無線で連絡してもらいましたのでトラブルはありませんでした。マジュロでは「山村要さん」に会いました。マーシャル遺族会に縁の深い方ですよね。

## ●島民とのコミュニケーションは？

派遣団には通訳がいませんでしたが、日本の教育を受けた島民がまれに健在で、片言の日本語を話すほか若い世代は学校で英語を学んでいましたが、普段使わないため片言です。お互いに片言でなんとか通じました。

日本人が島に来るのは珍しいため、たくさん人が寄ってきます。中には「ラーメンをくれ」と、シマイセエビと交換したり（笑）。彼らにとってはラーメンのほうがごちそうなんです。また、離島なので彼らの生活物資が不足していたため、タバコやシャツをあげると大変喜んでいました。どの島でも日本への親近感がありました。

## ●クエゼリンとロイナムルでは？

滞在は2日間で、我々に許されたのは「慰霊のみ」。米国の連絡担当官が来船し墓参（慰霊）の打合せをしました。現地警察署長

が保管していた1柱を受領し、戦没者の遺品も見せてもらえませんでした。その間、船はクエゼリンに碇泊、ロイナムルへは米軍の飛行機で移動でした。慰霊には米軍の情報将校など複数名が同行し、両島で慰霊祭をしました。

同行した日本語ペラペラの日系の元兵隊から「家に寄っていきませんか?」と誘われ、お邪魔しました。驚いたことに、彼の部屋には8トラのカラオケ機材があって演歌、軍歌と日本の歌ばかりありました。彼にとって、日本語で会話できることが嬉しくてたまらないといった感じで、自分が「日系である」ことを盛んにアピールしていました。きっと彼の心の中には日系人の複雑さがあったと思います。戦時中は通訳をしたり、投降を呼びかけたりしていたが、一方では母の国である日本をとても慕っている、そんな印象でした。彼らは日本人であろうとしているんだな、だから我々の訪問をとても喜んで、日本語を話したかったのだろうなと…。

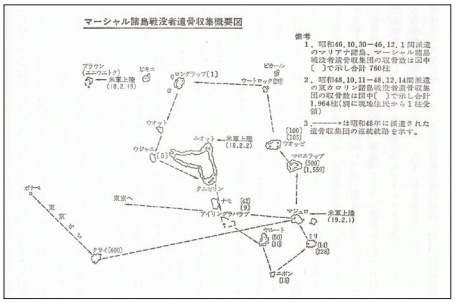
## ●一番大変だったご苦労は?

「時間管理」です。環礁は浅瀬ばかりで、吃水7mの外洋の船が入れる水道が限られます。もし座礁したら一巻の終わり、離島には救助も呼べません。

船は満潮時に環礁内に入り、団員が小型の船（カッター）に乗り換えて島に上陸し、有力者へ挨拶をし、遺骨捜索と収容をし、再びカッターで船に戻り、満潮のうちに外海に出ないといけない。もし作業が遅れて干潮になれば、船は座礁して出られなくなる。このすべてを1日の満潮時間内（11時間位）に終えないといけないのです。

昔の海軍水路部の水路図（海図）を使ったのですが、情報が古く海底が変わっているかもしれませんでした。船がどう進めばいいかルートがわからない。水道に入るたびに、航海士がおもりをつけたヒモ垂らして海底を測量しながら進むので、入るのに2時間以上かかります。限られた時間内にすべてを行うには時間管理が大変でした。上陸したら集中して作業しないと間に合わない。とにかくしんどかったですね。島での時間に余裕があれば、もっと収容できたと思います。

（つづく）



厚生省援護局「引揚げと援護三十年の歩み」より

●中部太平洋における戦没者遺骨収集日程表
昭和48年

| | | | 収骨数 |
|---|---|---|---|
| 10月11日 | 東京発 | | |
| 10月16日 | サイパン着 | 補給、打合せ | |
| 10月18日 | サイパン発 | | |
| 10月21日 | トラック着 | 補給、打合せ | |
| 10月22日 | トラック発 | 洋上追悼式 | |
| 10月23日 | モートロック着 | 遺骨収容 | 3 |
| 10月24日 | モートロック発 | | |
| 10月25日 | ポナペ着 | 補給、打合せ | |
| 10月27日 | ポナペ発 | | |
| 10月29日 | クサイ着 | 遺骨収容 | 3 |
| 10月30日 | クサイ発 | | |
| 11月2日 | マジュロ着 | 補給、打合せ | |
| 11月3日 | マジュロ発 | | |
| 11月4日 | マロエラップ着 | 遺骨収容・焼骨 | 1559 |
| 11月6日 | マロエラップ発 | | |
| 11月7日 | ウオッゼ着 | 遺骨収容・焼骨 | 105 |
| 11月8日 | ウオッゼ発 | | |
| 11月9日 | ウートロック着 | 遺骨収容・焼骨 | 29 |
| 11月11日 | ウートロック発 | | |
| 11月12日 | ロンゲラップ着 | 遺骨収容 | 1 |
| | ロンゲラップ発 | | |
| 11月13日 | ウジャエ着 | 遺骨収容 | 5 |
| 11月14日 | ウジャエ発 | | |
| 11月15日 | クエゼリン着 | 慰霊墓参のみ | 1 |
| 11月16日 | クエゼリン発 | | |
| 11月17日 | アイリングラプラプ着 | 遺骨収容 | 9 |
| | アイリングラプラプ発 | | |
| 11月18日 | ヤルート着 | 遺骨収容 | 10 |
| | ヤルート発 | | |
| 11月19日 | エボン着 | 遺骨収容 | 18 |
| 11月20日 | エボン発 | | |
| 11月21日 | ミレ着 | 遺骨収容・焼骨 | 228 |
| 11月27日 | ミレ発 | 追悼式 | |
| 11月28日 | マジュロ着 | 関係機関挨拶 | |
| 11月29日 | マジュロ発 | 補給 | |
| 12月3日 | ポナペ着 | 関係機関挨拶 | |
| | ポナペ発 | 補給 | |
| 12月7日 | サイパン着 | 関係機関挨拶 | |
| 12月8日 | サイパン発 | 補給 | |
| 12月14日 | 東京着 | | |
| | | 合　計 | 1971 |

（厚生省援護局報告・昭和 49 年より作成）

## ミリ島慰霊の写真（保延さんご提供）

ミリ島の空港

ミリ島の北端

お地蔵様

島に残るトーチカ

ゼロ戦の残骸

ミリ島のジャングルで

案内してくれたトミー君17才

ニヨジ・ロメトさん一家（ロメトさん右から4人目）

**※事務局へのご意見・ご感想、投稿記事、マーシャル関連情報などお寄せください。**

お問合せ先　事務局･髙林 048-223-6110 携帯090-3337-4531 メールアドレス takabayashi.yoshio@khaki.plala.or.jp